



## 大鹿村の山城② 堀田城(追手城)<sup>おうて</sup>

堀田城は、大河原城の防衛のために、鹿塩と大河原を結ぶ秋葉街道沿いの最も標高の高い場所に建てられました。大河原城の大手(正面口)に位置するため<sup>おうて</sup>追手城とも呼ばれたそうです。堀田城は、宗良親王の従臣・堀田正重の居城と伝えられており、1374年に宗良親王が大河原を出る際、正重も尾張国に移り、堀田城は廃城となったそうです。

市村(1933)による調査によると、堀田城は①②③の小郭からなるとされています(図2、図3)。一方、宮坂(2013)によると城内は②までで、③は城外の物見の類ではないかとされています。①が主郭で、標高約900m、中央付近に土塁が残っており、その北東側に<sup>しんめいしや</sup>神明社があります。②は、①から西に延びる尾根に沿って15mほど低いところにあります。中央構造線は②の西端の鞍部付近を通っていると推定されます。堀田城には空堀は見当たりませんが、中央構造線の鞍部を空堀の代わりとして利用しているようです。また、③は断層丘陵の頂部といえなくもないですが、②から③まで北西方向に延びる尾根には2か所のピークがあり、典型的な断層丘陵の地形をしていません。

なお、①の南方にある中尾茶屋堂(図2)は、<sup>じんがねどう</sup>陣鐘堂とも呼ばれ、ここの老松に陣鐘をつるしておき、有事の際に知らせたという逸話が残っています。現在の堀田城内は草木が茂って展望はイマイチですが、茶屋堂からは、地藏峠方面の青木川の谷がよく見えます。(宮崎)

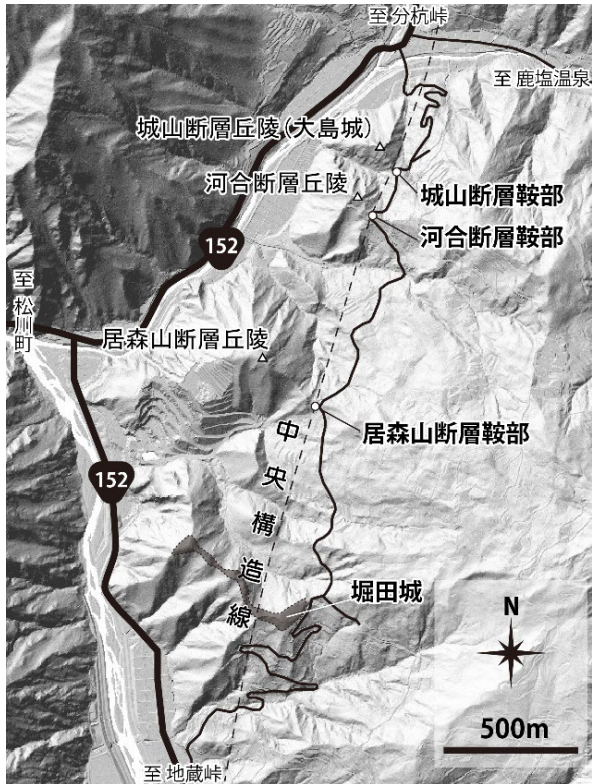


図 1 大島城と堀田城は鹿塩と大河原を結ぶ秋葉街道沿いに立地

背景の陰影図は、QGISにて長野県林務部の0.5mDEMをもとに作成。

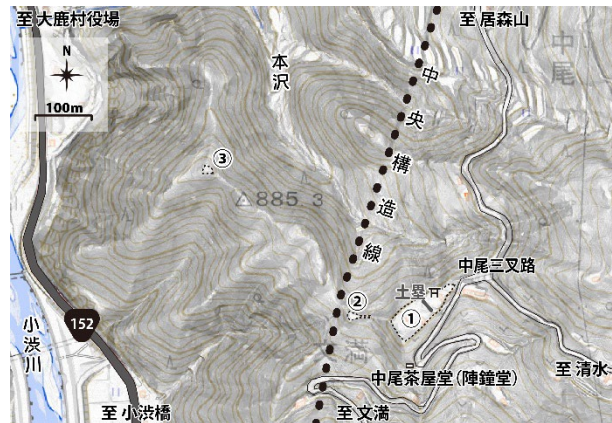


図 2 堀田城の小郭分布

QGISにて長野県林務部の0.5mDEMをもとに傾斜量を算出した図と地理院地図を重ねて表示。色が濃いほど急傾斜で、色が薄いほど緩傾斜を示す。①～③は市村(1933)、宮坂(2013)を参考に記入。



写真 2 大西公園から堀田城方面遠望

#### ◆参考文献

市村咸人(1933) 史蹟名勝天然記念物調査報告 第拾四輯, 長野県, p. 131-168.

宮坂武男(2013)「信濃の山城と館〈第6巻〉諏訪・下伊那編—縄張図・断面図・鳥瞰図で見る」, 戎光祥出版, p. 457-459.